

化石の学名の読み方について

井 尻 正 二 *

今さらこんなことを申しあげると、自分の不勉強を白状することにもなるが、分類学には全く興味がなく、さらぬだに新種の記載など考えたこともない人間にとっては、改めて勉強させられた問題でもあるので、御参考までに御披露したいと思う。

たとえば、恐竜の一種・剣竜は、学名を *Stegosaurus* ということは御承知のとおりである。それを日本語で読み書きするにあいには、ある人は英語読みでステゴソーラスと書き、他の人はドイツ語読みでステゴザウルスといい、またある人はローマ字読みでステゴサウルスと称する、といったぐあいである。

このようなまちまちな学名の読み方について、『新・日本動物図鑑・下』（北隆館、1971年、第3版）の712ページ「Ⅳ学名の読み方」の項には、つぎのようにのべられている。

「読み方のいろいろ 学名はラテン語またはラテン語化した語であるが、現在はラテン語を話す国民がないのでその読み方がまちまちであり、実際英米では英語流に、ドイツではドイツ語流に、その他の国でも独特の読み方をするものが少なくない。日本でも以前から人によって英語流によんだり、ドイツ語流によんだりしているだけでなく、同じ人でも語によって読み方が混乱しているなど、一定の標準がなくして全く自由であるかのようである。

日本語は欧州語と字音の構成も異なるので、学名をまったく日本語流に読むということは出来ないが、われわれが日本語に混じて読む場合に、例外の多い、また不合理の多いこれら外国語の読み方は真似する必要はないわけで、*Python* をパイソン、*Sipunculus* をサイパンキュラスなどと読む

必要は全くないのである。要するにもっと例外の少いラテン語本来の発音を採用するのが一番合理的であることはもちろんで、本書の学名を仮名書きにしたものはみなその法によっているが、その読み方も決して難かしいものでなく、幾つかの規則を理解しておけば正しい読み方をたやすく覚えられるものである。……」と。

では、ラテン語の読み方はどうしたらよいであろうか。外国語に弱いわれわれは、ラテン語などといわれると、さぞむずかしいだろう、という不安が先にたち、その結果、ラテン語勉強の拒否反応をおこすのは、私一人ではないと思う。

ところが、『ラテン語四週間』（大学書林、1977年、第22版）の3ページには、つぎのようにのべられている。「発音は大体日本でいう“ローマ字”通りの読み方でよろしい」と。ただし、cは[k]、vは[w]、chは[k]というぐあいに、ローマ字読みでないものもある。

なお、ラテン語の読み方（発音）は、同書の第一日目の課目で、同書の3ページから、約10ページ分である。また、上記の『新・動物図鑑・下』にも、同書の712ページから約4ページ分にわたって、ラテン語の発音の要領が解説されている。もちろん、これら以外に、もっとよいラテン語の教科書もあるであろうが、私にはそこまでせんさくするゆとりはない。

かくして、さきの *Stegosaurus* は、ステゴサウルスと読むのが、一ばんよい、ということになるうか、と思われる。

近頃、学名のあやしげな英語読み——とくに、アメリカ英語読み——がはんらんしているおりから、化石の研究者は、改めて正しい学名の読み方（ラテン語読み）を勉強するのも無駄ではない、と思われる。御参考までに。